研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
C-540		20-318	慶應義塾大学　加藤眞三

題名（原題／訳）

Combination therapy for non-alcoholic steatohepatitis: rationale, opportunities and challenges

非アルコール性脂肪肝炎の併用療法：理論的根拠、機会と課題

執筆者

Jean-François Dufour, Cyrielle Caussy , Rohit Loomba

掲載誌

Gut. 2020 Oct;69(10):1877-1884. doi: 10.1136/gutjnl-2019-319104.

キーワード	PMID
肝胆膵疾患、肝臓、非アルコール性脂肪性肝炎	32381514

要　旨

非アルコール性脂肪性肝炎（NASH）は、肝硬変の主要な原因となりつつあり、NASH に関連する合併症の負担は今後数年間で大幅に増加することが予測されている。現在、NASH の治療薬として、作用機序の異なるいくつかの分子が開発されているが、これまでに報告された有効性は限定的である。NASH の病態が複雑であることを考えると、薬理学的介入の結果を改善するためには、いくつかの標的や経路を関与させる必要があり、NASH 治療における併用療法の根拠となっている。併用療法への移行が進む中、本稿では、現在の治療状況を踏まえた上で、NASH の治療にこのような併用療法を行うことの合理性と、このアプローチの利点と限界についてレビューする。